

平成30年度「事故予防対策強化月間」を実施しました

～全力で事故ゼロを目指します～

工事に携わる一人ひとりの安全意識の高揚を図るとともに、「工事事故ゼロ」を目指し、様々な取組を行い安全管理の徹底を図りました。

1 『第48回 下水道工事安全管理者講習会』の開催

11月1日（木）、職員及び受注者等約600名を対象として、下水道工事安全管理者講習会を都庁大会議場にて開催しました。この講習会は、毎年、「事故予防対策強化月間」の開始にあわせ、安全管理の強化に向けた意識の高揚を図るため開催しているものです。

講習会の冒頭、下水道局事故予防対策会議議長である神山技監から、主催者を代表して、「安全管理の主人公は、最前線で現場に従事される方々であり、この講習会で得た知見を現場に持ち帰り、事故予防対策の強化に役立てていただくことを期待している。」との挨拶がありました。



主催者挨拶（神山議長）

（1）安全管理優秀現場の表彰

現場における日々の安全衛生管理及び労働災害防止対策に対する取組が優秀であった16の受注者を会場にお招きし、議長からそれぞれ受賞者に表彰状を授与しました。

受賞者には、「安全管理優秀現場賞」と表示された金色のシールを贈呈しました。このシールを顕彰としてヘルメットに貼って頂くことで、受賞者であることが一目でわかるようにし、安全意識の向上を図っています。

また、表彰式終了後、代表3現場の方々に、他現場の今後の取組の参考として、現場条件に即した効果的な安全対策事例を発表していただきました。

※表彰者一覧については局ホームページをご覧ください。

ください。

→ http://www.gesui.metro.tokyo.jp/news/pdf/H30_jyushousha.pdf



議長からの表彰状授与



安全管理優秀現場受賞者



安全管理優秀現場シール

(2) 安全標語の表彰

職員及び受注者等から約3,000件にも及ぶ応募を頂き、下記の2つのテーマごとに最優秀標語1点、優秀標語2点を表彰しました。また、表彰式では、受賞者より標語に込めた意図等についてコメントを頂くことで、更なる安全意識の向上が図られました。

併せて、最優秀作品2点をイメージしたポスターを作成、各現場に掲示することで、啓発活動に活用しています。

【今年度のテーマ】

- ① 重大事故の撲滅（墜落・転落、はさまれ・巻き込まれ、土砂崩壊、飛来・落下等）
- ② 路上工事における安全対策（第三者災害の防止、埋設物損傷対策）



安全標語受賞者

● 安全標語 表彰作品一覧

テーマ	賞名	安全標語	所属・受注者名	氏名
①	最優秀賞	要確認 作業手順と 安全帯	あおみ建設(株)	吉田 怜史
	優秀賞	「ちょっと待て」止める勇気が防ぐ事故	中部下水道事務所	矢野 聡
		落ちないと 思う油断が 落とし穴	久保木建設(株)	藤橋 優
②	最優秀賞	明瞭な 区画と誘導 防ぐ事故	(株)ビッグルーフ	安達 裕治
	優秀賞	確実に 目で見て確認 埋設物	建設部	椎名 洋匡
		小さな気配り 大きな安心 心のこもった安全誘導	(株)電業社機械製作所	平野 貴豊

● 最優秀作品を活用したポスター

【①重大事故の撲滅】



【②路上工事における安全対策】



(3) 特別講演

東京労働局労働基準部 副主任安全専門官 長澤英次氏より「建設業における労働災害防止対策について」と題して、安衛則改正に伴い重点的に取り組んでいる墜落・転落防止対策や、労働安全衛生法におけるリスクアセスメントの推進、建設現場の火災防止策に加え、安全帯関係の政省令改正の主な内容等についてご講演を頂きました。

続いて、一般社団法人 日本労働安全衛生コンサルタント会 赤松由通氏より「労働災害における受注者の責任と労働災害事例」と題して、労働災害の現状、労働者の法的義務や安全配慮義務、建設業に関する主な法令に加え、最近の労働災害事例の分析などについてご講演を頂きました。

本講習会の受講者がここで得た知見を現場で積極的に水平展開することで、重篤災害の撲滅に繋がっていきたいと考えています。



特別講演 1 東京労働局 長澤氏



特別講演 2 (一社)日本労働安全衛生
コンサルタント会 赤松氏

2 パトロール等の実施

(1) 『事故予防対策会議議長（技監）による工事現場安全パトロール』の実施

11月21日（水）、事故予防対策強化月間中の重点テーマである、「重篤災害に結びつきやすい事故に対する防止対策の強化」や「第三者災害の防止対策の強化」等の視点から、渋谷区内再構築工事、板橋区内のシールド工事及び森ヶ崎水再生センター内の設備再構築工事の3か所にて安全パトロールを行いました。

パトロールでは、路上工事における作業帯の設置状況や酸素濃度測定の実施状況、及びシールド現場等における仮設材の設置状況等について、組織的に安全の徹底を図っているか確認しました。パトロール後の講評として議長から「全体として事故予防対策に積極的に取り組んでいることが確認できました。これからも引き続き安全管理の徹底に努めてください。」とコメントがありました。



施工状況の確認



安全パトロール後の議長からの講評

(2) 各部所における事故予防の取組例

他団体との合同パトロールや、他事務所合同によるクロスチェックパトロールにて現場をチェックするとともに、ICT 技術を活用した危険体験実習やハーネス型墜落制止器具の着用訓練による重篤災害防止など、様々な取組を実施しました。



流域 水再生センター間クロスチェックパトロール



職員部・施設管理部・建設部 危険体感講習（VR）

3 最後に

下水道の再構築は、都民生活や事業活動に影響を与えないよう、施設を稼働させながら行わなければならない、比較的事故リスクが高い工事が多いと考えられます。そのため、事故予防は、現場毎のリスクを正しく把握するとともに、日々のKY活動など、年間を通じた地道な積み重ねが必要です。また、現場は常に変化しているため、絶えず状況変化に注意を払うことも重要です。

この強化月間の取組を契機に、職員一人ひとりが、「下水道局 安全心得」を肝に銘じて、安全管理の更なる徹底を図り、事故撲滅に局一丸となって取り組んでまいります。

(計画調整部 技術開発課)